

(実践報告) 抄録用紙

|                    |                                 |
|--------------------|---------------------------------|
| 演題名<br>(全角 80 字以内) | 在宅での輸液治療の実態<br>～当院での皮下輸液における調査～ |
| 演者名                | 菊池勝子 川村利絵 金野真弓 堀越麗子 柳田麻美        |
| 所属                 | 医療法人葵会 もりおか往診クリニック              |

はじめに

当院では在宅療養者に、脱水の予防や栄養状態の改善、終末期患者の症状コントロール、その他、急性期の治療などの目的で輸液治療を行っている。静脈・皮下・中心静脈などの輸液方法の中から、患者の状態に合わせて輸液方法を選んでいる。

目的

皮下注射による輸液はその簡便性と安全性から、在宅で行われる輸液方法として近年再評価されている。今回、実際に皮下輸液を施行する訪問看護師が、どこまで有用性や手技を周知・理解しているかを調査したので報告する。

実践内容・方法

2013年4月～2014年3月まで当院と連携のあった訪問看護ステーションを対象として、質問用紙調査を実施した。(訪問看護ステーション 25箇所)

1. 皮下輸液の必要性について 2. 皮下輸液の手技について 3. 皮下輸液の有用性について 4. 皮下輸液のトラブル、看護師の経験の有無について 5. 家族の感じかた 6. 意見・感想 を調査した。

結果・考察

アンケート調査において、訪問看護師より経験からの手技に対する不安や家族への説明に対する不安、輸液療法の効果に対する疑問などがあげられた。

訪問看護師の皮下輸液に関する実態が把握できたことによって、皮下輸液の指示が医師から出た場合、実施する訪問看護師への連絡を理解度に合わせた伝え方ができ、その結果患者に統一した手技で皮下輸液が行われるようになる。今回の調査結果を受け、当院で使用していた「皮下輸液の実施マニュアル」を見直し改善した。

当院の看護師の今後の役割として訪問看護師へ輸液方法や手技、トラブルへの対処方法の指導を行い、不安の軽減に努めることができるように、密に連携の取れる体制づくりが望まれる。